

以上であります。

○議長（春田 新一君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

.....

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時52分休憩

.....

午前11時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 皆さん、おはようございます。2番議員、新友会の吉野元です。

本日は、ツシマヤマネコを切り口とした、しまづくり戦略を議題に質問いたします。

ヤマネコを守るだけの対象から未来をつくる資源戦略へ、その転換が必要ではないか、そのことを市長に聞きたいと思います。

今、空前の猫ブームです。猫グッズやペットフード、病院など、猫による日本の経済効果は、2026年度、約3兆円に上ると言われ、ネコノミクスと言われています。

大阪・関西万博の経済効果は3.8兆円だったということで、かなり相当な経済効果が猫にあるということです。

この経済効果を生み出す猫に注目して、ツシマヤマネコを対馬の経済対策や移住政策に活用していく、すなわちヤマネコノミクスを考えていきたいと思います。

しまづくり戦略を考えるにあたって、対馬の強みになるのは、対馬にしかないものであり、その代表がツシマヤマネコです。対馬の観光や物産、移住対策など、対馬を売り込むときに、壱岐や五島、あるいは福岡などの近隣の都市部などとの競争の中で、対馬の存在をどう目立たせ、差別化させ、勝ちにいくか。そこに行政の戦略性が問われています。

ツシマヤマネコは、御存じのとおり国の天然記念物であり、約10万年前から対馬に生き、その後、人が対馬に来た後も、歴史を共に重ねてきた存在です。

西表島には同じ種類のイリオモテヤマネコがいますが、ほかに野生の猫は、日本全国どこを探してもいません。ここにしかないという特長は、対馬にとって最大の強みです。

もう一つポイントになることは、ツシマヤマネコをやみくもに発信して売り込むのではなく、対馬市が誰にどんな価値をどう届けるのか、これを明確にすることが重要です。これはいわゆるマーケティングの視点になります。全ての人を動かさなくてもよい、本当に価値を感じる人に届けば大きな力になります。だからこそ明確なターゲット設定や売り込み方が非常に重要です。

本日、1つ目の質問は、全国のツシマヤマネコのファンをターゲットにしたしまづくり戦略と

いう視点から、具体的な展開について掘り下げてまいります。

ツシマヤマネコが好きな人は、全国に数多く存在しています。その一例が、平成28年、対馬市がツシマヤマネコ基金を活用して実施した全国とらやまスタンプラリー事業です。ヤマネコを飼育する全国の10か所の動物園が連携して取組を実施しました。景品はヤマネコ米やタオルですが、1年間でヤマネコがいる10か所の動物園を全て回った方が、何と47名もいらっしゃいました。これは相当熱心なファンの存在であると言えます。

さらに、島内で活動している団体の中でも、NPO法人ツシマヤマネコを守る会の会員は、ウェブサイトでの調べによると、2025年3月31日時点で441名にも上ります。ヤマネコを見に対馬に観光に来る方、ヤマネコの保全に関わり何度も対馬に通う方、私が把握しているだけでもかなりの数になります。

中には、ヤマネコをきっかけに対馬に移住し、環境省や対馬市の保全関係の仕事に就いている方もいます。私もその一人です。これだけでもかなりすごい経済効果ですし、活力を生み出していると言えます。ヤマネコがいるからこそ生まれてきた関係であり、ほかの地域では、まねできない対馬ならではの強みです。こういうものを一つずつ積み上げていくことが重要だと思います。

しかし、私は、ヤマネコはさらに大きな可能性があると考えます。ヤマネコとのつながりを単なる保全や生物多様性の取組にとどめるのではなく、観光や産業振興、環境教育、移住促進といった分野へ戦略的に広げていくこと、これが対馬の将来の生き残りの切り札になってくのではないのでしょうか。

対馬市は、もっと主体的にツシマヤマネコを地域の力として活用していくべきだと考えます。しかし、現状では、ヤマネコと言えば、国の所管という認識が強く、市のしまづくりの中核に位置付けているとは言い難い状況です。ヤマネコを守る対象から未来をつくる戦略資源へ、今こそその転換が必要ではないのでしょうか。

そこで、市長に伺います。これまで対馬市は、ヤマネコを地域振興策とどのように関連づけてきたのか、また、今後、ヤマネコを核とした対馬ブランドの確立、農林業や観光振興、さらにはふるさと納税や移住促進施策への活用について、どのように展開していくお考えか、所見をお聞かせください。

次に、ヤマネコの交通事故対策についてです。

ヤマネコの個体数の減少の大きな要因の一つが、交通事故、いわゆるロードキルです。対馬市では、今年1月に、ツシマヤマネコ交通事故非常事態を宣言しました。またシカやイノシシを含む野生動物との衝突事故は、ヤマネコの問題にとどまらず、市民や観光客の命を守るための交通安全上、重要な課題であります。車の修理代や保険料の負担軽減にもつながります。

交通事故が発生する実態を把握し、それらのデータを基に注意喚起を行うことは、事故対策にも重要な施策です。

そこでお尋ねします。ヤマネコや野生動物との衝突事故について、市は発生時期や時間帯の傾向をどの程度把握しておられますか。特に事故の多い時期や時間帯があればお示してください。

また、その情報を生かし、空港や港、レンタカー事業者、宿泊施設、公式LINEなどを通じて、市民や観光客への注意喚起をさらに強化すべきと考えますが、現在どのような情報発信を行っているか、お聞きいたします。

さらに、今後についてです。警察、県、環境省と連携し、野生動物等の交通事故の実態把握と対策強化を図る考えはあるか。あるのであれば具体的な対策内容について、市長の御見解をお示してください。

最後にヤマネコ基金についてです。

先ほど全国に多くのヤマネコファンがいるというお話をしました。現在積み立てられているツシマヤマネコ基金も、ツシマヤマネコや対馬の自然を守ってほしいという全国の寄附者の思いの結晶です。

ウェブサイトの情報によりますと、平成20年度から寄附の募集を開始し、令和6年度までに3,500万円が集まっています。そのうち、これまでに約970万円が活用されていると承知しています。せっかく頂いた寄附ですので、その活用の在り方について、改めて検討する必要があるのではないかと思います。

そこでお尋ねします。現在のヤマネコ基金の残高は幾らか。これまでの主な活用実績とその効果をどのように評価しているのか。そして今後、どのような方針で活用していくのか。

以上、大きく3点について御回答をお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 吉野議員の質問にお答えいたします。

初めに、市は、これまでツシマヤマネコを地域振興策とどのように関連付けてきたかとの御質問でございます。

ツシマヤマネコは、対馬にのみ生息する国指定の天然記念物であり、本市の豊かな自然環境を象徴する存在であることから、第2次対馬市環境基本計画の方針に基づき、これまでもその保全を基本としつつ、地域振興との連携を意識した取組を進めているところでございます。

具体的には、環境省をはじめとする関係機関と連携しながら、ヤマネコを題材とした環境学習や啓発活動を実施し、次世代を担う子どもたちの郷土への理解と愛着の醸成を図ってまいりました。

また、観光分野におきましても、パンフレットやイベントなどにおいて、ヤマネコを対馬の自

然を象徴する存在として紹介するなど、対馬の魅力発信の一要素として活用してきたところであります。また、空港名におきましても、対馬やまねこ空港ということで拡散をしているところでございます。

一方で、ヤマネコの保全是、国の制度や専門的知見に基づく対応が不可欠であることから、市としては、保全活動への協力や啓発を中心に取り組んできた経緯があり、地域振興との一体的な位置付けについては、今後さらに整理すべき課題があるものと認識しております。

ツシマヤマネコを核とした対馬ブランドの確立につきましては、対馬の自然環境と共生する暮らしや産業の価値を、内外に発信していく上で重要な視点であると認識しております。

農林業分野におきましては、ヤマネコの生息環境を守る取組と調和した生産活動を進めることが、結果として対馬産品の高付加価値化につながるものと考えており、関係団体や生産者の皆様と連携しながら、環境配慮型の農林業の取組や情報発信の方向性を共有してまいりました。

例を挙げますと、佐護ヤマネコ稲作研究会が主体的に取り組んでおりますツシマヤマネコ米は、人もヤマネコも安心して暮らせる里づくりの象徴的な産品であると捉えており、今後も積極的にPRしてまいりたいと考えております。

また、観光分野においては、ヤマネコを単なる観光資源と消費するのではなく、対馬の自然や文化、暮らしを理解していただくための象徴的な存在として位置付け、エコツーリズムや環境学習と結びつけた持続可能な観光の推進に努めてまいります。

さらに、企業版ふるさと納税では、主要事業の一つにツシマヤマネコ保全事業を掲げており、国の天然記念物であるツシマヤマネコの知名度を活かして、対馬の自然環境保全活動を促進してまいりたいと考えております。

個人版ふるさと納税においては、寄附者が佐護区のツシマヤマネコ米を育てている田んぼのオーナーとして、1年間活動できる権利等を返礼品として企画し、提供しております。

また、返礼品の梱包資材へ貼付するステッカー及びお礼状を発送する封筒や、お礼状にヤマネコをモチーフにしたデザインを活用しております。

移住促進対策につきましても、ヤマネコと共生する島・対馬というストーリー性を持った情報発信を行うことで、対馬の価値に共感いただける関係人口の創出につなげていきたいと考えております。

今後も国や県、関係機関との連携を前提としつつ、本市のしまづくり戦略の中で、ヤマネコの持つ多面的な価値を活用してまいります。

次に、ヤマネコや野生動物との衝突事故について、市は、発生時期、時間帯などの傾向をどの程度把握しているのかとの質問でございますが、野生動物との交通事故につきましては、環境省や県と構成する対馬野生動物交通事故対策連絡協議会において、現状や課題を共有し、連携した

対策を進めているところであり、ツシマヤマネコの保全のみならず、市民や観光客の安全確保、さらには道路交通の円滑化の観点からも重要な課題であると認識しております。

野生動物との衝突事故については、夜間から早朝にかけての時間帯や、特定の路線・区域において事故が発生しやすい傾向が見られるとの報告を受けております。

一方で、シカやイノシシを含む野生動物全般の衝突事故につきましては、警察や道路管理者など、複数の機関に情報が分散している面もあり、情報把握が困難な面もございます。

次に、空港、港、レンタカー事業者、宿泊施設、公式LINEなどを活用し、市民や観光客への注意喚起をさらに強化する考えはあるかとの質問についてでございますが、これまでも関係機関と連携して、空港や港、レンタカー事業者、宿泊施設といった観光客の動線上における情報発信や、市公式LINE、インスタグラムなどのデジタル媒体や防災無線放送を活用した注意喚起を実施してまいりました。

今後につきましても、より効果的な周知方法となるよう、発信手法の工夫や充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、警察や県、環境省とも連携し、野生動物との交通事故の実態把握及び対策強化を図る考えはあるかとの御質問でございますが、対馬野生動物交通事故対策連絡協議会では、事故発生時点や時期、時間帯、周辺の環境などの情報を共有・分析することで、効果的な注意喚起や対策を検討しております。

本年度は、ヤマネコの交通事故が11件発生し、特に近年、生息情報が増えている下島での事故発生を鑑みて、本年1月15日に環境省、長崎県、対馬市の連名でツシマヤマネコ交通事故非常事態を宣言したところであります。

今後も関係機関との連携を強化し、事故情報の集約方法や傾向把握の進め方について整理してまいりたいと考えております。

また、飛び出し注意看板の設置や積極的な情報発信に努め、対策の強化を図ってまいります。

次に、現在のツシマヤマネコ基金の残高と、これまでの主な活用実績とその効果、今後の活用方針はどうなっているのかとの質問についてでございますが、ツシマヤマネコ基金につきましては、全国から寄せられた多くの皆様の善意と対馬の自然環境を守りたいという思いにより積み立てられてきたものであり、その趣旨を十分に尊重しながら管理・活用しているところであります。

令和6年度末の基金残高は、約2,565万円となっており、これまでの主な活用実績としては、ヤマネコの飛び出し防止柵の設置工事や路面注意表示工事などの交通事故対策から、全国のヤマネコ飼育動物園で開催したスタンプラリーやオンライン啓発イベントなどの保全啓発活動、環境スタディーツアーなどに充当してきており、ヤマネコ保全への理解促進や市民意識の向上といった一定の効果があったものと認識しております。

今後の活用方針につきましては、引き続き基金設置の目的に沿い、ヤマネコの保全及びそれを通じた自然環境への理解促進を基本としつつ、事業内容や活用の在り方については、社会情勢や市民ニーズを踏まえながら、より効果的な活用につながる事業の選定に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 市長、答弁ありがとうございます。ヤマネコの地域振興に係る活動、これまでの実績というのは理解いたしましたし、私が考えている方向性と一致しているなと思います。

ただ、今後、より戦略的にヤマネコをうまく活用しながら守っていくところをやっていたきたいというのが、今回の質問の意図ですので、そこについて、もう少し詳しく具体的に話を進めていければと思います。

まず、観光についてです。

今の対馬の観光は、多くの韓国人観光客が訪れてくださる一方で、一部では、混雑やマナーなどの問題が大きい、いわゆるオーバーツーリズムで、市民の生活に影響が出ていると感じる場面があります。

観光は、本来、地域に元気と収入をもたらすというのですが、数だけを追いかける観光が続けば、道路やトイレ、上下水道、ごみ処理などのインフラ整備、環境保全の負担が大きくなり、結果として、にぎわっているのに地域が豊かになっていないというような状況にもなりかねません。

今、世界では、本物の自然や文化をじっくりと体験したいという旅行のニーズが高まっています。これ、アドベンチャーツーリズムと言います。

タブレットのほうにも少し概要を参考にお示ししておりますが、こちらは、少人数を丁寧に案内し、地域のガイドがちゃんと説明をして、地元の宿や食を楽しんでもらう。この平均滞在日数は11日程度でこれ全国の調べです。1人当たりの支出は約44万円ということで、欧米の富裕層の観光客が多いんですが、こうした市場というのがあります。

この観光は、環境の負荷を小さく、地域経済への効果を大きくするという特徴があり、環境省も進めているところで、国立公園などでの導入を今モデル的に進めている状況です。

この世界の市場規模は70兆円と言われていています。少人数でも対馬の自然や文化を深く味わってもらい、その価値に見合った対価を地域に落としていただく。そうすることで市民の暮らしを守りながら観光を持続可能な形で続けていくという、ここに私は、この中心にヤマネコ、ツシマヤマネコを添えるべきだと考えています。

ツシマヤマネコそのものを見せるツアーではなく、ヤマネコと共に生きてきた対馬の森・里・川・海、そして私たちの暮らしそのものが世界に誇れる観光資源になります。

そこで、市長にお尋ねします。このツシマヤマネコを核としたアドベンチャーツーリズムを対馬市として本格的に推進していくお考えがあるか、お答えください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ツシマヤマネコは、国指定の天然記念物でもありまして、その活用にあたっては、生息環境への影響を最小限に抑え、保全を最優先とする姿勢が不可欠であるというふうに考えております。

このため、関係機関や専門家との連携の下、適切な利用ルールや受入体制を整えながら、自然環境と観光振興が両立する形で進めてまいりたいというふうに考えているところでございますし、その上で、ツシマヤマネコが貴重な観光資源として物語性のあるアドベンチャーツーリズムの推進については、観光事業者の皆様と緊密に連携・協力しながら取り組んでいければなというふうに考えているところでございます。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。今、市のほうで、エコツーリズム推進法に基づく体制強化ということをして今しているというのを認識していますし、その中で、ヤマネコ部会というのがあって、私たちも関わりがありますが、エコツーリズムを超えてアドベンチャーツーリズムという、もう一步先に行く仕組みというのが世界に広がってきていますので、そこを視野にぜひ検討を改めて進めていただきたいと思います。

2点目ですね。ヤマネコが好きな人をターゲットにした移住戦略というところも少し触れていきたいと思います。

先ほどの市長の糸瀬議員への一般質問に対しても、人口減少が一番の市長の肝煎り政策だというふうにおっしゃっていましたが、このツシマヤマネコを戦略に軸に置くことで、移住政策も広がりが見えてくるのかなと思っています。

先日、新友会の会派のほうで視察に行きました。岡山県の西栗倉村、こちらは事業者の派遣型の地域おこし協力隊制度というのも導入をしております。人口約1,300人の村で、これまで累計160名の超える協力隊が活動をしています。百年の森林（もり）構想という明確なビジョンを掲げ、森林づくりを軸に地域創生を進めているということが成功の背景にあります。

対馬でも、例えばヤマネコとの共生をビジョンに、環境配慮型の農林水産事業者、アドベンチャーツーリズムを推進する観光業者、環境教育に取り組む民間の団体などに対して、派遣型の島おこし協働隊を配置することが検討できないか。このことで募集がなかなか集まらないというような今の対馬の課題も、ヤマネコということをしかりと打ち出すことで、ヤマネコ好き、ある

いはヤマネコと共生することを憧れる外部の人材、若手人材が、対馬に興味を持って移住してくるのではないかとと思いますが、その点、市長の見解をお聞かせください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この件につきましては、先般の本会議におきましても、島おこし協働隊員の活動範囲の拡大等を目的とした、公益的法人等への対馬市職員の派遣に関する条例の一部を改正する条例を上程いたしまして、可決いただいたところでございます。また、併せまして対馬市島おこし協働隊設置要綱の改正も行っているところでございますし、これらの改正によりまして、協働隊員の雇用形態のバリエーションが拡充されます。

議員御提案の民間の派遣型等につきましては、要綱で定める委託型によりまして、この対応が可能となるのではないかとというふうに考えているところでございます。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 前向きに今、検討をいただいているということで、ぜひですね、今、ヤマネコ関連の協働隊というの、派遣型、委託型、それぞれ特性があると思いますので、それをしっかりと吟味しながら、ぜひ公募を開始していただくということで待ちわびているところでございます。ありがとうございます。

次に、先ほど、ツシマヤマネコのファンを明確なターゲットに据えたしまづくりについて、市長から答弁を伺いましたが、ヤマネコファンというのはもちろんのこと、今はヤマネコに関心がなくとも、全国に先ほど冒頭に申し上げた猫好きの方というのがたくさんいて、そこにかなり経済効果をもたらしているというところで鑑みれば、そういう方もターゲットに広げていくということが重要な戦略だと考えています。

まずは、対馬は野生の猫と共に生きている島であるということ、全国の猫好きに知っていただく。そして、対馬の産品や観光情報、さらには移住情報をお届けすることで、応援したい、一度行ってみたい、何か関わりたいと思っていただく流れをつくるというのが大事だと思います。

冒頭にお話をしたネコノミクス3兆円の経済効果にあやかるということを考えていただければと思います。そのためには、ターゲットを全国の猫好きに設定して、観光、物産、環境保全、移住、ふるさと納税、広報など、対馬市の各部署が連携して動けるように、対馬市として戦略を組み立てて共有する場が必要ではないかと考えています。

そこで、自然共生課の呼びかけのもと、関係部署が一堂に会するヤマネコ会議、通称ヤマネコノミクス会議とでも言いましょうか、こういったものを市役所の主導で立ち上げて、市としての方向性を整理して具体策を検討していただくという考えはないか、市長のお考えをお聞きします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 御提案のヤマネコ戦略会議につきましては、現在、組織しております

対馬市生物多様性協議会におきまして、ツシマヤマネコの普及啓発活動が、生物多様性の保全事業の一つとして位置付けがございました。

まずは、その枠組みの中での議論、そして御意見等を踏まえた上で、新たな戦略会議の設置・開催について、その必要性、実効性を十分に検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。ぜひ戦略会議では、具体的な方向性というのを示していただけたらと思いますが、参考までに私の考えるヤマネコノミクス、3本の矢というのをちょっとさっと考えてきたので、タブレットにお出ししていますので、ちょっと見ていただければと思います。こちらですね。

これは、本当にあくまでも戦略を立てて、しっかりやっっていこうというビジョンを各関連部署、あるいは市民事業者と共有をしてやっっていくという意気込みを示すようなイメージ図なんですけれども、私が考えるヤマネコノミクス、3本の矢というのは、ヤマネコの力を借りたアドベンチャーリズム、そしてふるさと納税の増額、そして島おこし協働隊、先ほど一般質問でさせていただいたようなことをしっかりと盛り込んだ中で対馬の再生を進めていくと。こういうようなちょっとインパクトのある戦略というのを打ち出させていただくことで、市のやる気と、本気というところを出していただきたいということで、ちょっと参考までにお作りしました。ぜひ御検討いただければと思います。

続きまして、ヤマネコ、あるいは野生動物の交通事故対策についてです。

市長からある程度のヤマネコの交通事故の発生時期や時間帯というのが、分かっているという答弁をいただきました。私のほうでもウェブサイトを確認をして、11月が特にヤマネコの交通事故が多いということが、突出してあるということが確認できました。10月、12月も多いということであります。

かつロードキルが発生する時間帯というのが、夕刻から明け方ということで、時間もかなりピークがはっきりしているということでしたので、こういった情報というのをしっかりとドライバーの方に伝えていく、市民、観光客へ伝えていくことが、交通事故の件数というのが減るんじゃないかと思っていますし、ドライバーの意識を変えることが重要だと思っています。

では、どういうふうに意識を変えるのかというところの体験の機会をつくる方法ですけれども、市長の答弁からいろいろ啓発をしていくと、既にしているということですが、新たな取組もぜひ御検討いただきたいなと思って、今回参考になる事例を御紹介したいと思います。

沖縄県の竹富町、西表島にある環境省の野生生物保護センターの取組であります。ここではヤマネコが道路に飛び出す状況を、運転手目線で体験できるドライブシミュレーターというのが導入されています。

お手元のタブレットにもありますが、こういうものですね。運転を模倣するようなシミュレーションで画面があって、ハンドルがあって、アクセル、ブレーキがあるというようなゲーム感覚でできる。シミュレーターがこのセンターのところにあります。

実際こう走らせると、こういう画面が出てきて、これは西表島の県道を模した形で、これはちょっと見えにくいんですけど、左側の道路際にイリオモテヤマネコが出てきて、これをゆっくり避けていかないとひいてしまう、ゲームオーバーというようなこういうゲームです。

これ子どもにも大人気で、私も大人もさせてもらっているんですけども、非常にこうリアルで、どのようにこう飛び出してくるのが具体的にイメージができて、強い注意喚起になります。

対馬市でもこのツシマヤマネコ基金というのを活用して、こうしたドライブシミュレーターの導入というのを関係機関と協議を開始するというのがあるのかなと思いますが、そのお考えがあるか、ぜひ御答弁をお願いしたいと思います。

また、その設置場所については、例えば空港の空きスペースとかがいいのではと思いますが、市長の見解をお聞きいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この西表島のドライブシミュレーターにつきましては、この資料によりますと、民間企業のほうから約500万円程度の寄附というようなことで頂いたということでございますけども、私といたしましては、できれば、そのようなことができればいいなというふうには思っているところでございますけども、これをツシマヤマネコ基金からということでございますが、このヤマネコ基金の活用につきましては、環境省、林野庁、そして長崎県、対馬市で構成されますツシマヤマネコ基金運用審査会で諮られて、その使途の適否が決定されるということでございますので、今、議員からいただいた案につきましては、こちらのほうに一つの案といたしまして提案をしていければというふうに思っておりますし、また、このドライブシミュレーターを置く場所ということで、対馬空港がいいのではないかとということでございますが、このことにつきましては、やはり対馬空港のその空きスペース等も考慮しながら進めていかななくてはならないというようなことで、空港当局のほうとも、このことについては御相談をさせていただければというふうに思っております。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 前向きな答弁ありがとうございます。ぜひ提案していただいて、シミュレーターが設置できるようにお願いしたいと思いますし、対馬の県道、国道、市道を再現して、ヤマネコだけじゃなくて、テンとか、あるいはシカ、イノシシというのがこんな形で出てくるんだよと。こういう場所に出てきやすいというのが体験として解ってくると、ドライバーの皆さんもそこを意識しながら運転するようになってきますし、夕刻とか朝方というのが一番多い

んだという情報もですね、すんなりとゲームを通じて体得できていくのかなと思いますし、話題性もあるかなと思いますので、ぜひ御検討いただきたいと思います。

場所については、もちろん空港だけじゃなくて、例えばあそびパークとか、ヤマネコセンターとか、ヤマネコのことを勉強できるような施設というのが対馬島内にもたくさんあると考えていますので、そういうところも複数検討いただければと思います。

最後に、ヤマネコ基金の活用等について、移りたいと思います。

このヤマネコ基金の活用については、より戦略的な活用の展開ができないかというふうに考えています。例えばヤマネコの棲む森林の再生や、環境教育プログラムの開発に取り組む市民団体や事業者を対象にした募集型の助成制度を創出してはどうでしょうか。

具体的には、ヤマネコと共生する森づくりを目指し、上県町佐護の舟志ノ内の市有林にある保全、ゾーニングを行った場所がありますが、ここに民間の活動を募集をして、提案型事業で基金を活用するということができないかと考えていますが、いかがでしょうか。

これは、森が整備されればニホンミツバチの蜜源が増え、蜂蜜がたくさん収穫できるようになります。海に必要な栄養源が流れ込み、磯焼け対策にもつながります。森の整備で地域に雇用も生まれますし、その場所で、先ほど話したようなアドベンチャーツーリズムの受皿が提供でき、富裕層がかなりのお金を落としてくれる、案内することができるようになるということが想定されます。さらには、この場所で作られたシイタケは、とても高価な商品になると。

こうしたプロジェクトをしっかりと発信していけば、さらに追加のふるさと納税やヤマネコ基金の寄附というのがたくさん集まるということも考えられるでしょう。関わりたい移住者や協働体もさらに増えていくことが想像されます。

このようにヤマネコの保全と地域の雇用、活力を生み出すような具体的なプロジェクトを基金を活用して民間を巻き込んでやっていくということが重要なと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことに関しましては、今現在、対馬市のほうで進めております既存の公募型の助成制度であります、わがまち元気創出支援事業等におきまして、新たにヤマネコ関連プロジェクト枠を設置して、このプロジェクトに対しましてヤマネコ基金を充当するなど、現行制度の枠組みを最大限に活用していくことも含めまして、今後、その仕組みづくりを検討していければなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。ヤマネコ基金は、当然ヤマネコを守りた

いという強い思いを持った方が寄附をされているものですので、ぜひ対馬市側もこういうふうにご利用していけば、ヤマネコが保全できるんだ。その下支えをしている地域の活力が生まれるんだというストーリーをしっかりと打ち出して、こういう活動をやってくれる人を募集するというような積極的な募集というのをやっていただくというのも、1段ステップは上がりますが、ぜひ挑戦していただきたいと思います。

また、環境教育への活用というところをちょっと最後触れたいと思いますが、学校現場では、子どもたちが学外で学ぶための予算というのが少なくて困っているというのを私もよく保護者や教育の先生方から聞いています。

そこで、この基金が充てられないかと考えています。例えばヤマネコセンターへのバス代の支援ですとか、ヤマネコをテーマにした研究発表の遠征費の支援、これは文化のクラブとか部活動ですね。そういうところに絡めながら支援するというような、子どもたちの学びを後押しするような仕組みというのもこの基金で活用できないかと思いますが、市長、その辺はいかがでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この基金の活用につきましては、実績といたしまして、平成25年から平成28年にかけて、長崎県と連携をして、対馬野生生物保護センターでの学習活動に係るバスの借り上げ費用の支援を行っているところでございますので、先例があるというようなことで、このことについては実施可能ではないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。割とこうヤマネコセンターで勉強したりとか、ヤマネコセンターの職員さんが、ヤマネコ教室という形でヤマネコのことを学べるようなコンテンツを提供されているというのは承知していますが、もっとほかの学校さんにもこれを周知をして、こういう基金の使い方もあるよということで、学外への移動手段の確保だったりとか、そういう活動にもヤマネコという視点を使えば、子どもたちの学びが深まるんだということをぜひ教育長も認識していただいて、協力を求めているなと思います。

最後になりますが、ツシマヤマネコというのは、対馬にとって環境保全だけの話ではないということが、今回一番伝えたかったことです。対馬に人を呼び込み、地域経済を生み、雇用を生み出す可能性を持つとても貴重で尊い地域の宝であり、対馬の未来をつくる資源、戦略資源だと私は考えています。

ヤマネコと共に生きることが誇れる島になる。それを理念だけじゃなくて経済戦略として実現する。対馬を挙げてネコノミクス、3兆円規模の市場にヤマネコを武器に参入していきたいと思

いますので、ぜひ市長、その大胆な決断を求めて、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（春田 新一君） これで、吉野元君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 昼食休憩とします。再開を午後1時5分からとします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 皆様、こんにちは。議長のお許しをいただきましたので、これより一般質問を行います。会派、新友会、3番議員、諸松瀬里奈です。

本日は、市の将来に関わる大きなテーマとして、財政の現状と将来負担、そして、その中で、私たちは何に投資していくのかという点について伺いたいと思います。

初めに、本市の財政状況と将来負担について伺います。

今回、私は、現金主義に基づいた決算カードではなく、平成28年度から公表されております発生主義の財務諸表を基に、市の財政状況を確認いたしました。

もうすぐ令和6年度の財務諸表が出ますが、現状で最新の財務諸表は、令和5年度分ですので、今回は、令和5年度の資料を基に話をいたします。

市の財務諸表、言わば市の家計簿を見ますと、対馬市が持っている資産の多くは、行政サービスを提供するための学校や庁舎、道路、港湾といった有形固定資産、つまり建物やインフラです。

これは、これまで市の市民の暮らしを支えてきた大切な資産ではありますが、同時に持ち続ける限り、維持費や管理費、修繕費、いずれは建て替えや解体の費用がかかるものでもあります。家庭で例えるなら、家を持っていること自体は財産だが、年数がたてば修理や建て替えが必要になるということと同じことです。

まず、この有形固定資産の保有状況と、将来世代への負担を示す指標である純資産残高の余剰分、（不足分）と書いてありますけれども、との関係について、市長はどのように認識されているのか伺います。

ここで、議場でタブレットをお持ちの方は、事前配付しております資料1—1、テレビの御覧の方は資料1—2、今から出しますけれども、を御参照ください。

これですね。対馬市が持っている固定資産が、図の黄色のところ、そして財務諸表で言うと、貸借対照表の右側の黄色で示されているところ、固定資産の総額、金額で見ると、2,082億